

The TENDAI journal

発行所：天台宗出版室
発行人：出版室長 坂本 圭司
〒520-0113 大津市坂本4-6-2
天台宗務庁内 電話：077-579-0022(代)
Eメール：t-press@tendai.or.jp

令和8(2026)年3月1日 日曜日
(毎月1日発行) 1部80円 (消費税込・送料別)

天台ジャーナル



禅定林大本堂に集う仏教徒ら

法要とプレイベントに20万人が参拝

インド・ナグプールにある禅定林(サンガラトナ・法天・マナケ住職)で2月6日から8日までの3日間、開創39周年並びに大本堂建立19周年記念法要が奉修された。日本からは一隅を照らす運動総本部の荒樋勝善総本部長、PMJパンニヤ・メッタ協会日本委員会の谷晃昭理事長らが出席。各仏教国から参加した僧侶らと交流を深めた。また明年に開創40周年、大本堂建立20周年の節目を控え、講演会やプレイベントが開かれ現地では期待や気運が高まっている。

インド禅定林は、インド中央部デカン高原東部にあるナグプールから車で2時間ほどのポーニ市ルヤード村に1987年、日印の仏教関係者らによって建立された寺院。インドにおける大乘仏教の拠点となっている。
住職を務めるサンガラトナ・法天・マナケ師(サンガ師)は、インドで大乘仏教を再興する指導者になって欲しいとの父親の願いを託され、9歳の時に来日。堀澤祖門探題大僧正の下で出家得度し、インドに帰国する1985年まで比叡山延暦寺で修行した。
インドで宗祖伝教大師の御精神を敷衍しており、PMSパンニヤメッタ・サンガ(智慧と慈悲の協会)を設立し孤児院や幼・保育園、小中学校の運営、僻地巡回医療、青少年育成、女性の権利向上などの福祉活動を展開している。
毎年、建立日の2月8日を

明年の開創40周年 大本堂建立20周年へ

インド禅定林



盛大な出迎えを受ける谷理事長

中心に記念法要を奉修しており、今年も20万人(現地警察発表)の仏教徒が集った。
日本からは、PMSの日本側の窓口として活動を支えるPMJパンニヤ・メッタ協会日本委員会の谷理事長、横山照泰事務局長、そして天台宗から荒樋総本部長ら12人が2月4日から7泊8日の日程で訪印した。
一行らは2月6日、ドンガルガル市南部にあるブラジュニヤ・ギリ山(智慧山)の釈迦牟尼大仏前で世界平和祈願法要に参列。法要後の式典では、日本からの参加者とサンガ師が約5万人の仏教徒らに講話した。翌7日は、改宗広場でのアンベードカル大学の学生による歓迎式典に参加し、現地メディアからの取材を受けた。また昨年からの始められた開創40周年に向けての仏教講演会「ダンマ・フォーラム」に出席。チベット仏教学者やタイ、ミャンマー、日本の僧侶らが講話し、各国仏教界の現状や平和への願いなどが語られた。
8日の記念法要は、仏旗を先導に禅定林までの約2kmの大パレードで開式。特設の壇上では、谷理事長を導師に日本式、次に上座部インド式とチベット式による法要が奉修された。続く記念式典では、釈迦像、伝教大師像、仏教改宗運動を主導したアンベードカル像へ献灯献花し報恩感謝を捧げた。また若者や子どもたちが所属するPMSユースが、小遣いや食費の一部から貯めた募金を一隅を照らす運動総本部地球救援募金へ寄託した。なお一隅を照らす運動総本部からも、パンニヤ・メッタ子どもの家に目録が贈呈されている。
荒樋総本部長は「めざましい経済発展の一方で、マイノリティである仏教徒は、医療や教育などで厳しい状況に置かれており、支援するサンガ師への期待はますます高まっている」と現状を語る。
その仏教徒らの信仰の拠り所である禅定林は、厳しい気象条件による影響で、屋根の損傷が激しく修繕する必要があるという。
PMJでは「来年は記念行事として授戒会も希望されていると聞いた。サンガ師の活動への支援者が増えることで、インドの仏教徒らを救うことにも繋がる。来年の記念法要を通じて、伝教大師様の忘己利他の精神がインドに広まるよう支援活動を続けた」としている。

極微

「あなたは心当たりありませんか?」
「つかり差別発言」とある人権啓発ボスタの1の標題だ。思わず自分の胸に手を当て考えた▼
「何気ない発言によって他者を傷つける行為、マイクロアグレッション」を広く知らせる目的で作成されている。「え?こんな事もできないの?」「新入社員にしては、いい事言うね」などの発言が具体例として挙げられていた▼文字にしてみると不快にさせてしまう言葉だと理解できるが、気づかないうちに口にしているかもしれない微妙なラインだ。
ネットで話題に上がり、気をつけなければという自戒の念が目立つ一方で「こんな事まで指摘されたら何も言えない」「言葉狩りだ」という意見も見られる▼お釈迦様は、人は生まれながらにして口の中に斧を持っており、悪口を発することは斧で自分の口を切る行為だと喩えられた。そして、自分を苦しめず、他人を傷つけない言葉を選ぶように説かれた▼他者へ投げかける言葉を誤ると、同時に自分自身を傷つけている。そもそも、同じ価値観を持っているとは限らないのだから相手を知らないうちに口出しするのは良くない。他者を思いやり、言葉をかけることで両者を傷つけることなく円満な関係を築けるのだ▼舌は禍の根と昔から言われるように、それだけ強力な斧を当たり前のよう持っていることを心に留めなければならぬ。